

日本白鳥の会を考える

日本白鳥の会理事 堺 博

日本白鳥の会は発足以来日本の白鳥の保護を一貫として進んで来たようだ。私が入会した時も、今日にいたってもそのことは変りがないと思う。

白鳥は白くて大きな鳥で、近頃では身近かな鳥となり愛くるしさ、ユーモラスなところ、ダイナミックなところと、どれをとっても白鳥を身近かなものと感じ、守ってやりたいという気持ちが湧いてくるものである。

それがなぜ会員増に結びつかず、反対に会員離れが進むのかという疑問が浮んでくる。一口に言って魅力がないことだと思う。それと白鳥の会の存在を知らない人が大半であることが大きな原因と考える。

魅力がない点としては、

1. 会としての基本方針がない。
2. 会報に興味を引くものがない。
3. 定時定点調査資料の不足。
4. その他
 - 1) 調査マニュアルがない。
 - 2) 白鳥ニュースが充実していない。

などがあげられる。友人で酒田大会に出席以来、会に関心を示さなくなった会員も数人いる。酒田大会の例は、会の基本方針のなさを現わしたものとさえいえないだろうか。それ以後改善され、その良い例が琵琶湖大会に現われている。琵琶湖大会のような大会であれば、今後出席者も増えてくるのではないだろうか。

1. 基本方針がない

会としてどのようにして日本の白鳥を保護し、その方法をどうするのかということがない。これがないと会員を増し、会員を引きとめておくことは出来ないだろう。それを会員に浸透させないといくら基本方針があっても会は発展しない。

2. 会報に興味を引くものがない

会と会員の連絡の一番大切なものが会報だ。その会報にも一貫性が見られない。このことは原稿の不足と関係あるのだろうが、投稿原稿だけを待っていると内容がぼらけてしまう。会報に白鳥に対する考え方なりを入れる必要がある。そうした場合原稿を依頼する方が会報を充実出来るし、魅力あるものになる。

3. 定時定点調査資料の不足

会員が一番関心があるのは定時定点調査資料にあると思う。定時定点調査資料の不足は会の基本理念の不足の現われだとも思える。現在のところ日本の白鳥の飛来地、飛来数を把握するという方針で行われて来たが、会員個々の自覚にも問題があるように思われる。

各地の支部組織なりを充実させ、会員にこだわらず白鳥の情報を集めるという考えが必要であり、そこから白鳥の会への入会を進めたりすれば、定時定点調査が充実し会員増にもつながると思われる。

4. その他

1) 調査マニュアル

定時定点調査、各調査項目を充実させるために調査内容を統一するためのマニュアルを作成する。

2) 白鳥ニュースの充実

年一回の会報をおぎなうために考えられたもので、会の行事、会員の声を集め広く会員外にも親しまれるものをつくっていく。

以上が私が考えられる原因と対策である。私は松井会長が常日頃から日本白鳥の会の発展のため尽力され、多額の寄附を集められたことに、会員が報いられるものは会の充実と会員の増加以外にはないのではないかと考える。そのために求められるものは、会を運営する執行機関の再編を考えなければならない。かねてから提案しているように理事の中から幹事を選任し、執行機関を設けることもひとつの考え方と思われる。

方法はひとつしかないと考えてはいない。多くの人の知恵が集まればよりよいものが出来ると思う。そのためにも多くの会員が総会や研究会に参加して、多くの意見を出し合い、議論することが、日本白鳥の会の発展に一番必要なことだと思う。

このような私の考え方が少しでも会のために役立つことと、日本白鳥の会の発展のための議論の幕開けになることを期待して。